

テーマ: 「総論 (産業・社会・経済)」

16:00-16:05 開会挨拶

16:05-16:25 講演①「日本のアフリカビジネスの現状と今後の展望～TICAD8も振り返りつつ～」

独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ) 海外調査部中東アフリカ課長 佐藤 丈治

アフリカは豊富な天然資源や爆発的な人口増加により、世界の注目を集めている。では、アフリカに進出する日系企業はアフリカでのビジネスをどのように見ているのか。ジェトロはアフリカ24カ国に進出する302社を対象に、経営状況や今後の事業展開、有望分野などについてアンケート調査を実施。アフリカの日系企業のビジネス状況や展望について調査結果をもとに解説する。



16:25-16:45 講演②「民間団体による、アフリカにおける栄養改善事業の取り組み」

公益財団法人味の素ファンデーション 事務局長 上杉 高志

2009年に味の素(株)が開始したガーナの乳幼児栄養改善プロジェクトは、2017年より公益財団法人味の素ファンデーションに引き継がれ、ガーナ・日本の官民連携による活動を進めています。途上国における発育阻害(Stunting)の課題解決は容易ではありませんが、栄養サプリメント「KOKO Plus®」の浸透、母親の行動変容への栄養教育を、ガーナ政府機関、日本政府と民間企業、国連組織等と共に進め、現地組織が持続可能な事業を目指して取り組んでいます。



16:45-17:05 講演③「構造転換の条件と日本のビジネス・ポスト資源依存のアフリカ開発に向けて」

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹

21世紀に高度成長を経験したアフリカだが、世界的な資源ブームが去った後、再び経済停滞に陥った。依然として深刻な貧困状況の克服には、より長期に持続的で包摂的な開発を実現していかなければならない。しかし、かえって強まった資源依存や二重構造、貧富の格差、製造業の退行など多くの課題が残る。他方、成長のカギとなるはずの日本企業の投資の低調さが嘆かれている。求められるのは、外資主導の開発のあり方の見直しに加えて、日本の従来型アプローチの再検討と新しいビジネス関係の構築であろう。本講演では皆さんとともに、これらの課題について考えたい。



17:05-17:55 講演者3名によるフリートーク

テーマ: 「文化」

16:00-16:05 振り返り

16:05-16:25 講演①「eスポーツで見たアフリカ～アフリカに眠る課題と可能性～」

一般社団法人鳥取県eスポーツ協会 会長 渡部 裕介

「eスポーツで世界の社会課題を解決する」というミッションを掲げる当団体は、eスポーツの持つあらゆる可能性を追求しています。鳥取県eスポーツ協会は、eスポーツをきっかけに国境を超え、アフリカのeスポーツ団体やアフリカのプロゲーマーと繋がりました。そして実際にアフリカを訪問し、eスポーツイベントを開催して見たアフリカの現状や可能性、見過ごすことのできない社会課題について共有したいと思います。



16:25-16:45 講演②「アニメをはじめとする日本コンテンツのアフリカ市場での可能性(仮)」

独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ) デジタルマーケティング部 主幹 牧野 直史

ネットフリックスやアマゾン・プライムなどオンライン動画配信プラットフォームの世界的な普及に伴い、世界での日本のアニメ人気はここ数年で急速に高まっています。新型コロナのさなかにあってもその勢いは増しており、日本動画協会「アニメ産業レポート2022」によれば、2021年の日本のアニメの海外市場は1兆3,134億円と過去最高を記録しました(10年で1兆円以上拡大)。アフリカ市場も例外ではなく、今後日本のアニメのアフリカでの展開は大きなポテンシャルを秘めています。講演ではその一端をお話しできればと思います。



16:45-17:05 講演③「カメルーンの起業家たちの困難と未来:アフリカにおける経済のかたち」

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 平野(野元) 美佐

カメルーンは産業が少なく、公的機関とわずかの民間企業を除けば、安定した給与を得られる就職先はほとんどない。そのため若者は、零細企業に就職するか、自分で小さな仕事をつくるしかない。小さな仕事を起業し、徐々にその仕事を拡大していく者がいる。しかし、彼らの前には多くの困難が立ちだかる。彼らはどのような困難にであい、困難のなかでどのような経済を形づくろうとしているのか。首都ヤウンデにおける具体的な事例から考えてみたい。



17:05-17:25 講演④「創りだされる土器のかたち:エチオピア西南部における土器の製作と利用」

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵

アフリカでは、大量生産された外来の日用品とともに、地域内で製作されているものも流通・利用されている。エチオピア農村部に暮らすアリの人びとは、外来のアルミ鍋や鉄製品とともに、地域内で製作された土器を調理具として利用している。50種類以上におよぶ土器の形態は4つに大別できる。サイズの違いに留意して識別される土器種を製作と利用の場面に注目して検討し、アリの人びとにとっての機能的な「かたち」について論じる。



17:25-17:55 質疑応答